

会員の ひろば

もったいない MOTTAINAI

札幌市医師会

門脇 純一

お年の方々には、「もったいない:MOTTAINAI」という言葉は、体に染み付いている。しかし、一部のお年の方やその年代以外の方々には、無縁であるかもしれない。というのは、この言葉、いまや死語に近い扱いだからである。

ところが、この言葉、2005年頃から息を吹き返してきた。それは、ケニアのワンガリ・マータイ女史のノーベル平和賞受賞が火付け役を果たしたからといえる。

「もったいない」の語源は、和製漢語、仏教用語として紹介されている。モットイ：勿体は、[物体]の起源を持ち、しかもそれに「ない」の否定語が付いている。すなわち物の形、あるべき姿の意味から派生、拡大されて使われるようになった（語源由来辞典）。

広辞苑を引くと、神仏、貴人に対して不都合である、不屈きである、過分なことで恐れ多い、かたじけない、ありがたい、そのものの値打ちが生かさず無駄になるのが惜しい、不信心、不敬な、無礼な、などがあげられている。

英文では、precious、wasteful、impious、not worthyなどが相当し、前述の派生を理解するのに役立つ。

20世紀の大量生産、大量販売、大量消費時代は、その頃の勢いの強い総理の顔をつい思い出してしまふ。そして「もったいない」は、その対極にあるように考える。

わが国の風呂敷は、「もったいない精神の象徴」と述べている人もいる。これは、一片の布切れにすぎないが、多目的に利用され、一般的には安価である。ある時、私も似たようなことを報告した（道医報第1023号、2003年12月1日付）。最近、和服のリユースが注目されている。しかし、この中には高価なものもあるようだ。

日本人は年間、一人当たり10kgの服を買い、9kgを捨てているというのを見て驚いた。特殊な人だと思われるが。男は少ないと感じていたが、最近の男性はおしゃれになってきているのでどうなのか。性による偏りまでは調べなかった。

おしゃれといえば、フランス人女性を口にする日本人が多い。フランス在住の日本人女性によると、フランス人は「もったいない」が生きていて、節約は筋金入りであるという。使い古しのクロスのリメイク、屋敷のカーテンのリメイクは、映画好きの人ならあの女優さんの身につけたピロードのドレスで容易に想起される。

日本人が感じる「もったいない」のネガティブな概念を昇華し、平和運動の実践、理念として、ポジティブに捉える動きも見られるようになってきたようだ。IT商事は、資源循環型のブランド商品化の開発に取り組んでいる。

われわれの住んでいる地球の資源は、有限なものも多くあり、使い方によっては予測より早く消滅してしまうものもある。このことを強く認識し、子孫のため、生物のため環境保全はもちろんのこと、実践可能な手近なものから、しかもみんなで行動を開始すべきである。

エコ運動では、G8で3Rイニシアティブ：リデュース、リユース、リサイクルが推進されている（2005年4月）。これに文化面でのリスペクトが加われば、いっそう深みが増す。

木のいのち、 花のいのち

函館市医師会

市立函館恵山病院

水関 清

古木を見るのが好きである。豊かな樹齢を保つ存在がかたちづくってきた、独特の空間の中にたたくことが好きである。

函館市東部を流れる汐泊川畔にある古木をたずねたことがある。樹齢800年余りと推定される椴の木で、地上2.5メートルのところでは枝が相互につながっており、いわゆる連理の木となっている名木である。

はじめて訪れたのは11月の半ば。雪の気配のただよう中、硬い樹皮に守られ、寒風の中に佇立していた。木の周りを一回りしてみた。幹の中ほどには、大枝が落ちた跡と思しき大きな虚があり、表面は樹脂に覆われ、コケが張り、その周囲は盛り上がった樹皮に囲まれていた。見上げれば樹叢の先端に至るまで葉は散り尽くし、冬の青空が広がっていた。

翌春。雪解けをまって再び訪れてみた。冬を越した硬い樹皮の間には、落ち葉の名残がこびりついていたが、あちこちの枝では長い葉柄が伸び出し、毬のような新芽が萌え出していた。

その約1ヵ月後。葉柄を中心に、掌をひろげたように周囲に伸び出す楕円形の葉で、樹間は埋め尽くされ、春の陽光が葉叢の上で踊っていた。

日ならずして足を伸ばした4度目の訪問の時には驚いた。葉叢の中から、穂のような形をした花序が、一面に立ち上がっていたのである。花びらの色は白や薄紅で、おしべは高く伸び出して花外に向かう。その可憐な花々がいくつも集まって円錐をかたちづくり、新緑となった葉叢の中から立ち上がる花序となって、初夏の空に向か

って咲き上がっていく。

見上げれば、樹叢の頂上まで、一面にひろがる薄紅色に輝く花序の群れ。陽光を淡く通す新緑。足もとには、受粉後に花序を離れて散り敷いた花卉の紅が満ちている。昨冬の枯れ木のような姿からは想像もできないほどの、木の中ではじけた生命の爆発。

それから約1ヵ月後。葉叢の中から立ち上がっていた花序のいくつかは、青い実となり、掌をひろげたような葉は、厚みを増して、濃緑色の丈夫な成葉になっていた。つばさに葉もとの枝々を見ていく。幹から伸び出した枝のすべてが実をつけているのではないことに気付く。途中には一枚の葉すらつけず枯れ枝のように伸び出して、枝先のみ葉と少々の実をつけているもの。幹を離れてすぐの位置から、枝先まで満遍なく葉と実をつけているもの。根元に豊かな実りを蓄えてはいるものの、枝先にはか細げな葉がついているだけのもの。大枝の分岐部近くには、ひこばえのような細い枝も伸び出している。

樹齢800年余といえ、この椽の木が見続けてきた世の流れは、北海道の擦文時代から相当し、松前氏の若狭からの移入や、この木のある場所からほど近い志海苔地区の殷賑の様子は、その記憶の中にとどめられている出来事なのかもしれない。志海苔地区にあり、史跡にもなっている志海苔館付近の地から銭の詰まった3つの嚢が発見されたことがある。うち2つが福井県の越前古窯、もうひとつは石川県の珠洲で焼かれたものであり、中の銭貨は、93種・37万枚余の多数をかぞえ、その8割までが天徳4(960)年から元永2(1119)年の間に鑄造された北宋銭であったという。その時代には、近くを流れる志海苔川の川砂から採れる砂鉄を利用して農具が開発され、沿岸で採取される質の高い宇賀の昆布などの売買もさかんで、貨幣が流通したであろう当時の活発な交易の状況がしのばれる。なお、14

世紀中頃に編纂された庭訓往来には、宇賀の昆布についての記載があるという。

振り返って考えてみると、木に代表される植物のいのちと、動物のいのちとは質が異なるのかもしれない。

動かないことを選択したいのちは植物となり、葉緑体との共生によって水と光の持つエネルギーを身内に蓄え、生きる糧とした。動かないことで移動に必要なエネルギーは不要となる。その活動域や活動様式による変化は比例関数的で、穏やかなものとなる反面、環境依存性は高くなる。具体的には、根ざした場所の水利、日当りの良否が死活的生存条件となる。が、与えられた環境のもとで、根をさまざまな方向に伸ばし、幹を太くして、枝を張り、その不利を克服するべく樹体を変えていくことで、好条件に恵まれれば1000年を超える寿命も授かることができるのは、多くの古木の実在が教えるところである。

動くことを選択したいのちは動物となり、ミトコンドリアとの共生によって、電子伝達系という、システムのやや不安定ではあるものの、激変するエネルギー需要に対応可能な代謝能力を身内に備え、生きる糧とした。動くということは、周囲環境と自身の内的環境との関係が常に変化する相対性を帯びた環境の中に身を置くということである。内的環境の恒常性維持、それ自体が、膨大なエネルギーを必要とする状態であり、必要なエネルギーは時々刻々大幅に変動し、その活動域や活動様式によってはその変化は指数関数的なものになる。すなわち、動く能力を獲得したことで、環境依存性は低くなり、自らの活動に有利な場所を選択できる可能性は高まることになる反面、動くという行為そのものに内在し、またその行為から派生するさまざまな状態に対応するために、高エネルギー状態に常に即応する適応能力が、実際的には求められるということにな

る。その結果動物は、これら激変するエネルギー需要に応えるシステムの維持自体に大きく影響されざるを得ず、植物ほどの長寿はかなえられないことになったのであろうか。

年年歳歳花相似たり
歳歳年年人同じからず

中国初唐の詩人、劉廷芝の手による、よく知られた漢詩の一節である。

私たちは、いろいろないのちに囲まれて生きている。

新医師臨床研修制度 の功罪

札幌市医師会

竹村 敏雄

古い事柄は理解されにくい

新医師臨床研修制度は、63年前の昭和21年から始まったインターン制度を真似たものであるが、この新医師臨床研修制度を作った人も、運営している人も、84歳の私よりも約20年以上若い世代の人々で、インターン制度発足時代の事柄や、インターン制度と新医師臨床研修制度との比較を述べても、なかなかピンとこないようである。

私は平成20年9月1日発行の北海道医報1080号から4回にわたって、「会員のひろば」に新医師臨床研修制度について発表してきたので、過去の発表文との重複をなるべく避けて、今現在、起こっている事実について述べたいと思う。

この医師研修制度の功の部分

この医師研修制度は「専門に偏らず幅広い臨床能力を身につける」ことを目的に創設されたというが、60年前の古いインターン制度を真似て、臨床各科を次々とローテーションする研修方法を採用しているので、教える側も責任

が持てないし、教えられる側も責任が持てないので、研修が終了した時でも、大体の診療方法が分かっているという程度で、人の命を左右するような診療ができるようには成長していないと思う。

すなわち幅広い臨床能力が身につけているというレベルには、まだ達していないと思う。

この医師研修制度の罪の部分

1) 医師不足

新医師臨床研修制度がインターン制度を真似た点は3つあって、7科目の臨床研修科目と、臨床各科をローテーションする研修方法と、臨床研修を必修として義務付けた点であった。

この2年間の研修義務付けが、現在大問題になっている医師不足を起したのであって、臨床研修科目や研修方法は医師不足とは全く関係がない。

臨床研修は必修であるから、2年間の研修期間中は、研修医は診療実務に全く参加できない。診療担

当者から見れば、その分の人員だけの医師不足が発生しているのが分かるはずである。

平成16年4月からの1年間は、大学医学部卒業者の1年分の人員約8,000人の医師が診療実務の中で不足になった。

平成17年4月からの1年間は、大学医学部卒業者の2年分の人員約16,000人の医師が診療実務の中で不足になった。

平成18年4月以降は、医師不足のために診療規模を縮小したり、廃院してしまつたところに、毎年必ず約16,000人の医師不足が繰り返されたので、医師不足がますます激しくなり、今まで一度も経験したことがないほどの医師不足となっている。

現在の医師不足をなくするためには、新医師臨床研修制度を1日でも早く廃止する以外に、全く方法がないと思う。

2) 医師偏在

臨床研修病院は昔のインターン時代とは全く変わって、大学附属

病院以外に数多くの民間病院が研修病院の指定を受け、研修医が自由に研修病院を選ぶことができるように改定された。この改定が医師配置を大変革することになる。

研修医はいろいろな診療科を見ているので、それらの科の労働環境がよく理解できて、仕事が楽な診療科に医師が多数集まり、田舎の労働環境が悪い病院にも行かなくてはならない大学医局に戻ることを避けたり、産婦人科や外科などの仕事がキツイ科を志望する医師がいなくなるという現象が起こったりした。

これらのことは、望ましい医師の適正配置とは全く逆の状況である。このことから新医師臨床研修制度は、医師偏在を作っていると断言しても良いのではないかと思われる。

この点からも、新医師臨床研修制度を1日でも早く廃止する必要があると思う。

お知らせ

第36回 全道医家囲碁大会 ならびに 女流アマとの交流会開催のご案内(予告)

標記大会を下記のとおり開催することになりましたので、多くの会員にご参加いただきたくご案内申し上げます。

正式なご案内は、10月1日・11月1日の医報附録でいたします。

【女流アマとの交流会】

日時 平成21年11月14日(土)

対局 午後2時～午後5時

懇親会 午後5時～午後7時

会場

対局 北海道医師会館

(札幌市中央区大通西6丁目)

TEL 011-231-1434

懇親会 会場未定

【大会】

日時 平成21年11月15日(日)

対局 午前9時～午後4時

懇親会 午後4時～午後5時30分

会場

札幌市医師会館5階

(札幌市中央区大通西19丁目)

TEL 011-611-4181

お問い合わせ先

〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目

北海道医師会会員課内 全道医家囲碁連盟事務局

(担当：若松・村重)

TEL 011-231-1434 / FAX 011-241-3090